

I. 年度計画・目標

1. 海洋スポーツの普及を目的に、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催する。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力する。
3. セーリング競技等における競技力向上に関する事業を開催する。
4. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第30号を発刊する。

II. 事業計画（各事業の主担当者名／実施期間）

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

（1）指導者育成（主担当 中村）

自然体験、海洋スポーツに関連する資格取得講習会の機会を提供する。

（2）近隣小学校の海洋スポーツ体験と大学生指導実習の合同開催を計画する(主担当 中村)

（3）海洋スポーツの教育効果に関する調査を実施する（主担当 笹子・中村）

国立大隅青少年自然の家での計画する事業に対し協力体制をとるとともに、本学学生の指導力向上の場としても活用させていただくことで、人的交流を図る。

2. 研究プロジェクト

（1）生涯スポーツとしてのSUP（スタンドアップパドルボード）の効果に関する研究

（主担当 中村／通年）

海洋スポーツ活動のうち、特にSUPを対象とし、生涯スポーツとしての普及振興を図るため、SUP運動の体力特性や健康増進効果を検討する。

（2）カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究

（主担当 中村／通年）

パフォーマンス向上のためのトレーニングメニューに関する生理学的、力学的観点からの見直しと改変を実施し、実施回数やトレーニング頻度を加味した効果的なトレーニングメニューの検討、または選手個人の実践効果を検討する。

（3）セーリング競技における基礎研究の推進（主担当 榮樂・笹子／通年）

セーリング競技（ヨット、ウインドサーフィン）におけるパフォーマンス向上のための情報収集（陸上および海上）を実施し、パフォーマンス評価の指標となる項目の可視化を検討する。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

近隣海洋スポーツ施設との連携体制を継続し事業を実施する。

（1）学長杯オープンヨットレース

（主担当 榮樂・笹子・中村・坂口／令和6年9月1日（予定））

学長杯オープンヨットレースを開催し、地域の海洋スポーツの普及・進行を促進する。
ヨット部・ウインドサーフィン部の協力を得る。

（2）カノヤカップヨットレース大会協力

（主担当 榮樂・中村・笹子・坂口／令和6年8月31日（予定））

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後

の講習会（実技指導等）を企画する。ヨット部・ウインドサーフィン部の協力を得る。

（3）公開講座（榮樂・笹子・中村・坂口）

①公開講座 A：楽しいマリンスポーツ

（主担当 榮樂・笹子・中村・坂口／令和6年4月14日（日）～5月19日（日））

半日講座を計5回企画する。ヨットやカヌーを中心とし、経験の浅い者が、安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とする。講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることが理想で、参加者・応援者として活動が出来るような活動場所を推薦する。

②公開講座 B：楽しいスキndaイビング（初級者編）

（主担当 榮樂・笹子・中村・坂口／令和6年5月15日（水）～6月30日（日））

プール7回（水曜日19時～20時30分）、海1回（日曜日9時～16時）で、計8回の講座を企画する。安全に楽しくスキndaイビングを実施するための知識と技術を習得することを目的とし、講座終了後、参加者自身でマリンスポーツを楽しめるようになることを目指す。

③公開講座 C：少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ

（主担当 榮樂・笹子・中村・坂口／令和6年8月6日（火）～8日（木））

安全に楽しく海浜活動・海洋スポーツ活動を行い、海洋スポーツの基礎技術の習得と磯観察等による環境学習を行う。また、2泊3日の宿泊を伴う集団生活を通して、仲間づくりや仲間とのコミュニケーションの取り方を経験する機会を提供する。

（4）マリンフェスタ in かのやへの協力

（主担当 中村・坂口・榮樂・笹子／令和6年7月14日（日））

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当する。主な種目は、ヨット、ウインドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボードの4種目であり、ヨット部、ウインドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得る。

（5）国立大隅青少年自然の家との事業協力（主担当 中村・笹子・榮樂・坂口／通年）

相互に、海洋スポーツ事業および研究事業における共同展開を図る。

4. その他

（1）協力者会議の開催（主担当 中村・榮樂／令和6年12月3日予定）

現在のところテーマは未定。

（2）卒業生の海洋スポーツ活動状況調査（主担当 笹子・榮樂・中村／通年）

卒業生の海洋スポーツ活動に関するかかわりの実態について調査を継続する。

（3）競技スポーツにおける試合・合宿への協力

セーリング競技における競技力向上のための試合・合宿に協力する。

（4）外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

教育団体等の外部団体の海洋スポーツ体験を受け入れる。その際、学外スポーツ実習の場として活用できることや研究協力が可能なことなどを加味する。

Ⅲ. 予算計画（附属施設経費（海洋スポーツセンター経費）2,050 千円）

1. 教育プロジェクト 0 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0 千円	講師謝金 等
物件費	0 千円	備品費、消耗品費 等
その他	0 千円	講師旅費 等

2. 社会連携・社会貢献プロジェクト 167 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	108 千円	学長杯運営補助賃金（@900×6時間×20 名）←学生バイト
物件費	59 千円	学長杯関連消耗品費 等
その他	0 千円	

3. その他 1,883 千円

区分	金額	算出内訳
人件費	12 千円	協力者会議謝金（@6,000 円×2 時間×1 名）
物件費	1,631 千円	燃料費、保守・修繕費、修繕関連消耗品、（866 千円） 印刷製本費（200 千円） その他管理運営費等 （複合機 180 千円、気象情報 330 千円、その他 60 千円）
その他	240 千円	協力者旅費（鹿屋ー東京：80,000 円×1 名）（80 千円） 職員研修旅費（鹿屋ー東京：80,000 円×1 回）（80 千円） 職員雑費（業務必要経費）（80 千円）